

GEO 協議会 だより

25年11月1日

No.15

編集・発行：

～白・黒・赤を巡る旅～

美祿市ジオパーク推進協議会事務局

< 連絡先 : 0837-63-0055 >

日本ジオパークへの認定見送り

9月24日、日本ジオパーク委員会において日本ジオパークの認定審査が行われ、美祿地域は、今回は「認定見送り」という結果になりました。誠に残念な結果となりましたが、世界ジオパークへの認定を目指して、今後も引き続きジオパークの推進に努め、地域住民の皆様方にご理解・ご協力をいただきながら取り組んでまいります。

■村田会長（市長）挨拶

9月24日に開催されました日本ジオパーク委員会において、日本ジオパークネットワーク正会員の加盟認定審査が行われ、誠に残念ではございますが、今回は美祿地域の正会員加盟認定を見送るとの判断が下されました。美祿地域がジオパークに取り組んできたのは、ジオパークの理念が私の考えるまちづくりと合致しているからです。ジオパークの理念とは、地質や地形などの保全とともに、それらを研究・教育やジオツーリズムなどの観光に活用して地域の持続的な発展を図っていくものだと理解しています。地域住民の皆様が秋吉台や秋芳洞などの地



記者会見を行う村田会長（市長）

質資源の価値を学び、理解されることで、誇りを持って美祿地域に住んでいただくことができると考えています。さらには、地質遺産やその上に成り立つ動植物の生態や歴史・文化などを見て・学んで・体感するジオツーリズムの推進、また、美祿地域ならではの大地の恵みである秋芳梨・美東ごぼう・厚保くりなどの特産品を素材としてだけではなく、加工して新たな特産品を開発するなど、地域経済の振興にも繋がると考えられます。

美祿地域はこれまで、平成23年5月に日本ジオパークネットワークの準会員として参画以来、平成24年3月に美祿市ジオパーク推進協議会を設立し、各種セミナーやジオパークモニターツアーなどの実施、協議会だよりの発行などの活動を展開してまいりました。このたび、日本ジオパーク委員会におかれましては、美祿地域が日本ジオパークネットワークの正会員になるには、まだ活動が十分ではないとの判断を下されたわけですが、同時に審査の過程におきまして、ジオパークとしてもっと良くなるように、魅力がさらに向上するように様々なご助言をいただいています。また、改善すべき課題もご指摘いただいています。これらのご助言、ご指摘を真摯に受け止めて、課題を整理したうえで、日本ジオパークの認定を目指して今から着実にジオパーク活動を推進することを決意しています。その先には世界ジオパーク認定への挑戦が控えていますので、ここで立ち止まるわけにはいきません。今後、ジオパークの取組みが、真に地域の持続的な発展、ひいては地域住民の皆様のご幸福の実現に繋がるように精進してまいります。引き続き、地域住民の皆様、関係団体の皆様のお一層のご支援、ご協力をお願いするものであります。

日本ジオパークネットワーク隠岐大会に参加しました

10月15～18日に、日本ジオパークネットワークの全国大会が島根県の隠岐ジオパークで開催されました。本協議会からは12名が参加し、基調講演や分科会を通してジオパークの知識を深め、他地域との交流及び情報交換を行いました。中でも、「無形文化財を取り入れたジオパーク活動」と題して開催された分科会では、ジオパーク活動に無形文化財を取り入れた事例とその成果について意見交換を行いました。その他にも、ジオパークガイドとしての手法やその実践事例、ガイドの養成方法、リスク管理につ



式典の様子

いて意見交換を行うこともでき、他地域の取り組みを参考にすることができました。本大会を通して身に付けた知識を、これからの美称地域のジオパーク活動に役立てたいと思います。

.....

隠岐ジオパークは、国内で6番目となる世界ジオパークに認定されました！そんな隠岐ジオパークってどんなところ？



ローソク島にかかる夕日



白島（しらしま）海岸に広がる景色

隠岐ジオパークは、島根半島の北40～80kmの日本海に点在する4つの有人島と多数の無人島（隠岐諸島）によって構成されています。離島という環境と海洋生物や漁業などの人の営みも重要であると考え、陸域だけでなく海岸から1kmの海域もあわせた673.5km²（陸域346.0km²、海域327.5km²）をジオパークの範囲としています。

隠岐諸島は、時代によってその姿を“七変化”させてきた歴史があります。ユーラシア大陸と一体だった時代、湖の底だった時代、深い海底にあった時代、火山活動によって隆起した時代、島根半島と陸続きになった時代、そして離島となった現在の7つです。このような成り立ちを経たからこそ、世界的に見ても珍しい不思議な生態系や黒曜石による隠岐ならではの歴史・文化が、連続性を持って存在しています。

隠岐諸島は、島根半島から分離して離島となったのではなく、海面の上下によって島根半島と陸続きになったり離島になったりを繰り返しています。隠岐諸島と島根半島間の現在の水深は約70mですが、約2万年前の水河期における海面は現在より130mほど低く、陸続きであったことがわかります。その後、地球の温暖化による海面の上昇によって、約1万年前に現在のような離島となりました。